

平山賀一 賛成討論

2015年3月20日

公明党京都市会議員団は、議第18号から議第21号までの水道事業、公共下水道事業、自動車運送事業及び高速鉄道事業の27年度特別会計予算について賛成する態度を表明しておりますので、会派を代表し討論を行います。

まず、上下水道事業における予算について申し上げます。

平成27年度は「京(みやこ)の水ビジョン」の後期5箇年の実施計画である「京都市上下水道事業 中期経営プラン」の3年目に当たります。また、近年被害が多発する大雨に対する浸水対策が一層求められる年度でもあります。私たち公明党市会議員団は、市民の財産である安全でおいしい水の確保といのちを守る災害対策の視点から、上下水道局の来年度予算について議論を重ねました。

水需要の長期的減少が続く中、中期経営プランに掲げられた経営効率化と財政基盤の強化についてプランを上回る予算編成となっており、高く評価します。また、市民との約束である水道老朽管更新率のアップも着実に進展する予算となっています。予算審議のなかで管理者が表明されたとおり、来年度は、次の中期プラン策定に向けて検討を開始する重要な時期です。公営企業としての体質強化と同時に市民サービスの更なる向上を十分に図ることを次期プランの柱として、しっかりと検討を進めていただくようお願いします。

大雨浸水対策として、私たちが昨年の決算審議で指摘し要望しておりました雨水浸透ます設置助成制度の利用拡大について、助成制度の対象を広げることや、付帯工事に関する費用についても負担するなど助成金増額が行われるなど、具体的な対応策が図られたことから相談件数が飛躍的に増えています。

市民レベルでの雨水対策の充実を高く評価致します。

更に、現在工事が進められている、あるいは予定されている雨水幹線整備事業は、巨額の資金を要する公共事業ですが、市民の安全・安心の向上のために工事の着実な進捗と、住民理解のもとで工事が進められるよう求めておきます。

また、かねてから私たちが提案もしてきた下水処理施設での下水熱や汚泥・ガスなどを活用した再生可能エネルギーの開発は、民間の技術・ノウハウを取り入れながら一層の取組みをお願いします。

次に、自動車運送事業並びに高速鉄道事業について申し上げます。

市バスについて、一般会計からの任意補助金に頼らずとも 6 億円強の経常利益を計上し、且つ資金収支も黒字に転換する予算編成となっており、これまでの攻めの経営が大きな効果を挙げています。管理者を先頭とした職員の皆様のご努力に敬意を表します。この財務体質が定着するためにこそ来年度は重要な年と捉え、引き続き攻めの市政での取組みを進めていただきたいと思います。

予算審議では、いわゆる周辺地域における公共交通として、バスの役割と重要性が多く指摘されました。市内には市バスが多く走る地域、民間バスのみ走る地域、あるいは市バスと民間バスが競合して走る地域など様々ありますが、利用者である市民からみれば公共交通としてのバスの大切さ同じです。周辺地域の公共交通課題について、京都市及び交通局が民間事業者と顔をつき合わせ協議するテーブルをより充実させ効果をあげるよう、しっかりと取り組んでいただきたいと思います。

また、バス待ち環境の充実について、例えば、簡易型ソーラーシステムを活用したバス停の照明やバスロケーションシステムの拡充、広告付バス停に頼らな

い簡易型のバス停屋根の設置など、工夫を凝らし市民の目に見える形での対応をしっかりと図っていくべきと考えます。

高速鉄道事業の平成 27 年度予算については、現金収支の改善と経常収支の赤字解消の指標が経営健全化計画を上回るものとなっています。平成 30 年度の日あたり 5 万人乗客まで残り 1 万 7000 人という段階までできました。5 万増の目標達成は変わらず高いハードルですが、市長から「必ずやり遂げる」との強い決意が表明されました。取組と成果に期待します。

地下鉄ホーム転落防止柵の設置など駅の安全対策はスピード感をもった一層の拡充が求められます。また、中期的には烏丸線が設備耐用年数を迎えることによる地下鉄設備更新が大きな課題です。いずれも巨額の資金を要することから、とりわけ経営健全化途上にある京都市営地下鉄としては、国への要望をしっかりと行い道筋がみえてくるように、引続き強く努力を重ねていただきたいと思います。

以上、会派の考え方を述べてまいりましたが、上下水道事業、交通事業ともに、ここ数年、管理者を中心に職員一丸となった取組みで中期のプラン・方針に基づいた成果が着実に出ていることを評価し、平成 27 年度はその次を見据えて、各事業の経営基盤を固め市民の安全・サービスの向上により努められるよう期待し討論いたします。

御清聴ありがとうございました。

以 上